

高等学校・英語の学習指導要領は こう変わります

編集部

0. 中学校学習指導要領はどう変わったか

高等学校の話題に入る前に、今年度（平成24年度）から実施される中学校・外国語（英語）の学習指導要領がどのように変わったか、簡単にポイントをあげてみます。

①時間数の増加

各学年で、年間時間数がそれぞれ105時間→140時間、3年間の総時間数では315時間→420時間に増えました。

②指導する語数の増加

「900語程度まで」から「1200語程度」と約300語増加しました。また、上限設定から下限設定に変わり、「別表1」として指定されていた必修語（100語）もなくなりました。

③言語活動や文法事項に関する制限の削除

小学校で「外国語活動」が導入されたことから、「聞くこと」と「話すこと」の指導目標から「慣れ親しみ」が削除され、また、「基本的なもの」や「理解の段階にとどめること」とされていた文法事項の制限も削除されました。しかし、言語材料そのものについては、大幅な増減はありません。

以上の点から、中学校の新学習指導要領では、時間数を増やすことによって、言語活動を通して言語材料の定着を図り、より実践的な運用能力を養うことを目指していることがわかります。

1. 高等学校学習指導要領改訂のねらい

高等学校学習指導要領改訂の全教科におけるね

らいとしては、次の3点があげられています。

- ①教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成
- ②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視
- ③道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成

また、外国語科改訂の趣旨として特に強調されているのは、中高を通じて「4技能を総合的に育成する指導」の充実です。

2. 高等学校・外国語科の改訂のポイント

それでは、高等学校・外国語科の学習指導要領がどのように変わったか、具体的なポイントをあげながら確認していきます。

(1) 語数の大幅な増加

今回の改訂のもっとも大きなポイントのひとつが、設定語数の増加です。

	旧		新	
中学	900		1,200	
高校	英 I	中+400	コミュ英 I	中+400
	英 II	I + 500	コミュ英 II	I + 700
	リーディング	I + 900	コミュ英 III	II + 700
合計	1,800~2,200		3,000	

上の表の通り、「コミュニケーション英語Ⅲ」まで履修すると、学習する語は従来の最大2,200語から3,000語へと、中高合わせて約800語増加します。また、この語数は、アジア諸国の高等学校における設定語数に近づいたとされています。

(2) 科目の再編

科目について新旧の比較をすると、下の表のよう
にまとめられます。

旧	新
	コミュニケーション英語基礎 (2)
英語 I (3)	コミュニケーション英語 I (3)
英語 II (4)	コミュニケーション英語 II (4)
リーディング (4)	コミュニケーション英語 III (4)
オーラル・コミュニケーション I (2)	英語表現 I (2)
オーラル・コミュニケーション II (4)	英語表現 II (4)
ライティング (4)	英語会話 (2)

※ () 内は標準単位数。コミュ英 I は 2 単位まで減可

「コミュニケーション英語基礎」は、中学校の
学習内容の定着を図り、「コミュニケーション英
語 I」への接続を目的とした科目です。

従来の「英語 I・II」「リーディング」は、4
技能を総合的に育成する科目「コミュニケーション
英語 I・II・III」へ再編されました。

「英語表現 I・II」は、従来の「オーラル・コ
ミュニケーション I・II」と「ライティング」を
整理統合した科目で、「話すこと」「書くこと」を
中心とした表現力の育成を目標としています。

「英語会話」は、基本的な日常会話ができる能
力を養う科目です。

なお、従来は「英語 I」と「OC I」の選択必
履修でしたが、新学習指導要領での必修修科目は
「コミュニケーション英語 I」のみです。

(3) 2つのキーワード

今回の改訂では、「どのように指導するか」に
ついて踏み込んだ記述がされていますが、その
中で、特に強調されているのが下記の2点です。

①文法はコミュニケーションを支えるもの

②英語で授業を行うことを基本とする

①については、「言語活動と効果的に関連付け
て指導」し、「用語や用法の区別などの指導が中
心とならないよう配慮し、実際に活用できるよう
指導すること」とされています。なお、文法事項

として指定されている項目は、すべて「コミュニ
ケーション英語 I」で扱うこととされています。

②について、『学習指導要領解説』ではその趣
旨を「英語による言語活動を行うことを授業の中
心とすること」であるとし、文法説明など日本語
を交える場面も考えられるとして、「授業のすべ
てを必ず英語で行わなければならないということ
を意味するものではない」と補足しています。

3. 各科目のポイント

各科目の目標・内容に関する解説や展開例につ
いては、他の記事にゆずりますが、「コミュニケ
ーション英語」と「英語表現」について、いくつ
かポイントをあげてみます。

「コミュニケーション英語 I・II・III」の目
標・内容については、従来の「英語 I・II」と大
きな違いはありません。I II IIIの違いについても
難易度が高まるだけで、内容や取り扱いに大きな
変化はありませんが、IIIでは「社会生活において
活用できるようにする」という目標があげられて
おり、生涯学習も視野に入れた「生きる力」の
育成>を目指しているところが目新しい点です。
また「読むこと」について、速読・精読など「目
的に応じた読み方をする」ことや「聞き手に伝わ
るように音読する」ことなどが加わりました。

「英語表現 I・II」は目標として、「事実や意
見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表
現の方法を工夫しながら伝える能力を養う／伸ば
す」とあり、改訂のねらいである<思考力・判断
力・表現力等の育成>を意識したものとなっています。また、「話すこと／書くこと」だけでなく、「聞くこと／読むこと」と有機的な関連をもたせることも配慮すべきとされていて、4技能を統合した指導が期待されています。

◆参考文献

岡部幸枝・松本茂 編著 (2010)『高等学校新学習指導要領
の展開 外国語科英語編』明治図書
文部科学省ホームページ (<http://www.mext.go.jp>)